

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏消費者物価(23年8月) —総合指数・コアともに5%台の伸び率が続く

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 総合指数、コアともに前年比 5.3%

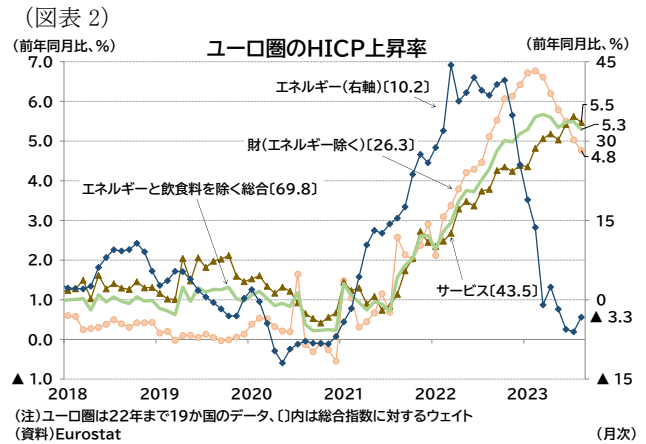
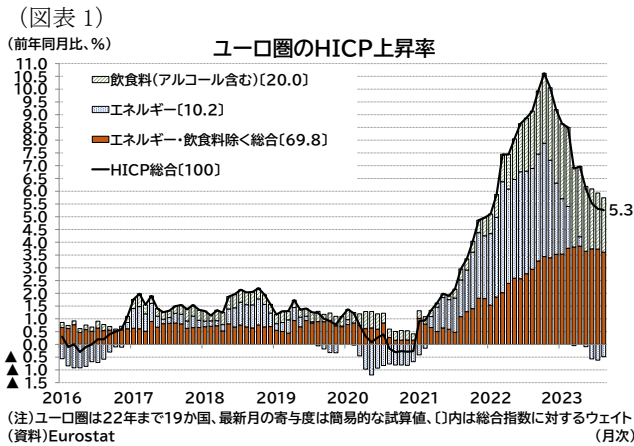
8月31日、欧州委員会統計局（Eurostat）は8月のユーロ圏のHICP（Harmonized Indices of Consumer Prices：EU基準の消費者物価指数）速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は5.3%、市場予想¹（5.1%）から上振れ、前月（5.3%）と同じだった（図表1）
- ・前月比は0.6%、予想（0.4%）より上振れ、前月（▲0.1%）からプラスに転じた

【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は5.3%、予想（5.3%）と一致し、前月（5.5%）から低下した（図表2）
- ・前月比は0.3%、前月（▲0.1%）からプラスに転じた



2. 結果の詳細: 物価減速ペースは依然として不確実性が高い

23年8月のHICP上昇率³（前年同月比）は全体で5.3%となり、7月の5.3%から横ばいで推移した。一方、「コア部分（＝エネルギーと飲食料を除く総合）」は5.3%とやや低下した。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料（アルコール含む）」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財（飲食料も除く）」が6月5.5%→7月5.0%→8月4.8%、「サービス」（エネルギーを除く）が6月

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

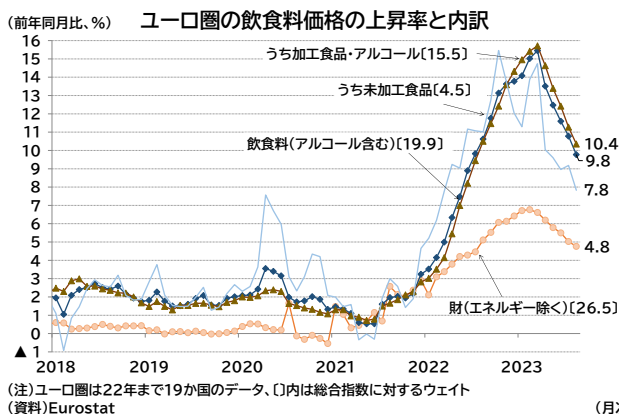
² 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

³ 23年からはユーロ圏20か国のデータ、22年までは19か国のデータ（以降も特に断りがない限り同様）。

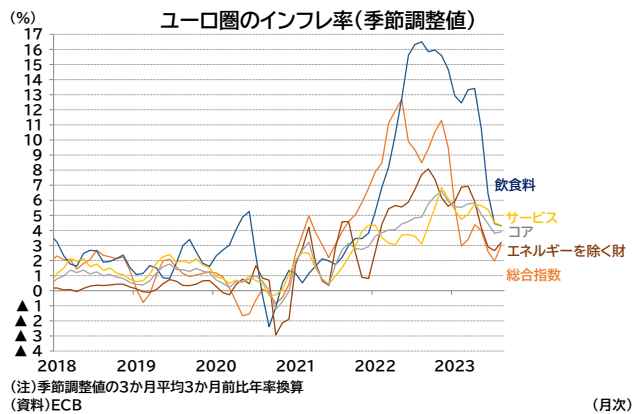
5.4%→7月5.6%→8月5.5%となり、財インフレは22年7月以来となる4%台まで低下した。サービスインフレも前月よりは低下したが、5%台半ばで依然として高い。前年同月比寄与度は、「財」が1.14%ポイント程度、「サービス」が2.20%ポイント程度と見られる。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で6月▲5.6%→7月▲6.1%→8月▲3.3%とマイナス幅が縮小した。前月比では3.2%と23年1月以来となる前月比プラスとなり、23年4月時点の水準程度まで戻した。エネルギーの前年同月比寄与度は▲0.48%ポイント程度(7月は▲0.62%ポイント)と見られる(前掲図表1)。

(図表3)



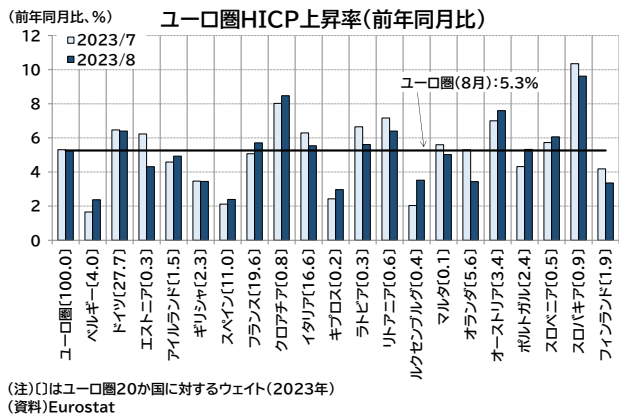
(図表4)



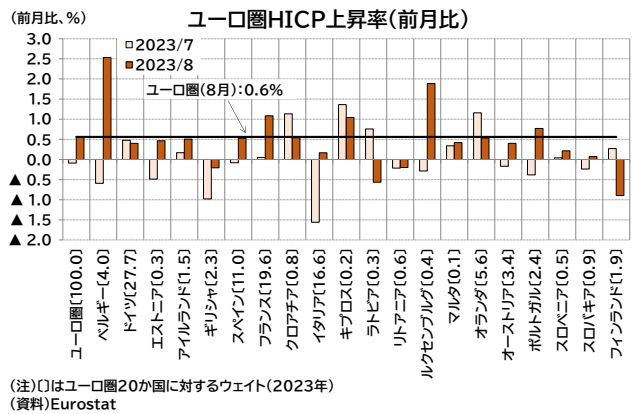
「飲食料(アルコール含む)」は、前年同月比で9.8%(7月10.8%)と5か月連続で大幅に低下した(図表3)。飲食料のうち加工食品の伸び率は10.4%(7月11.3%)、未加工食品は7.8%(7月9.2%)となり、未加工食品は再び大幅に下落した。飲食料の前年同月比寄与度は2.13%ポイント程度(7月は2.20%ポイント)と見られる。

物価上昇の勢いをECBが公表する季節調整済系列で確認すると(図表4)、3か月移動平均後の3か月前比年率で総合指数が3.0%、コアが4.3%、エネルギーを除く財が3.2%、サービスが4.3%、飲食料が4.3%となった。傾向としては減速しているが、今月は下げ渋っている印象がある。先行きの動向(インフレ減速ペース)については依然として不確実性が高い状況と言える。

(図表5)



(図表6)



国別のHICP上昇率は、前年同月比で20か国中、上昇したのは10か国で残りの10か国は低下した(図表5)。また、7月はベルギーでECBの物価目標である2%を下回ったが、8月はすべての国が2%を超えている。

前月比では16か国がプラスの伸び率で、4か国はマイナスの伸び率となった(図表6)。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。